第5回生涯学習審議会
資料1

答申「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について」に係る取組状況について

１．町田市立自由民権資料館について

町田市立自由民権資料館は、自由民権運動をはじめとする郷土の歴史を後世に伝える施設として１９８６年１１月に開館しました。「自由民権運動」と「町田市域の歴史」に関する資料を収集・保管・調査・研究し、その成果を展示や講座を通して紹介しています。市民に広く公開することで市民の歴史学習活動の拠点としてその役割を果たしてきました。

町田市教育委員会では、所管する公共施設についてのあり方の検討を行うとともに、施設の管理運営や実施事業をより効率的に行うための見直しに向け、２０２０年７月、町田市生涯学習審議会に対して「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について」を諮問し、同年１１月に答申をいただきました。

この答申を踏まえ、２０２１年２月に「町田市立自由民権資料館のあり方見直し方針」を策定し、これまで様々な見直しを進めてきましたので、現在の取組状況等について報告いたします。

２．答申内容と現在の取組状況について

（１）目指すべき姿

＜自由民権運動の学びを現代（地域）に活かす＞

答申概要
・全国で３館しかない自由民権を冠した施設であるというブランド力を活かし、市内外に研究成果を発信していくことで、地域の魅力を高めるとともに、市民の郷土への愛着や誇りにつなげていくことが大切。 ・より多くの人が関心を寄せるきっかけとなるよう、世情の動向に絡めたメッセージ性の高い発信をしていく必要がある。

あり方見直し方針
【めざす姿１】自由民権運動の学びを現代（地域）に活かす **研究成果を市内外に発信し、“自由民権運動研究といえば町田”と呼ばれるようになることで、町の魅力向上の一翼を担う。** ・特別展の対象範囲を全国に広げ、誰もが知る歴史情報と関連づけることでさらに魅力が伝わる展示を取り入れる。 ・自由民権運動への関心を高めるため、「自由」「平等」「人権」など現代社会において身近に感じられる問題も視野に入れた活動を展開する。 ・研究成果を展示や刊行物として発信することのほか、デジタルコンテンツを作成するなど効果的な発信を行う。

現在の状況

○自由民権運動に関する常設展を３部構成にリニューアルし、その１つを全国的な自由民権運動の動向と意義を紹介した「自由と民権をもとめて」とした。

○自由民権運動を専門とする学芸員が在籍している「自由民権」を冠する公立博物館として、市内外を問わず学校（教員）からの教材の相談をはじめ、メール・電話でのレファレンス対応をしている。

○現代の人権問題も視野に入れた活動
・ミュージアムトーク「本の著者に会ってみよう！“町田”の片隅で選挙と日本国憲法をたぐりよせる」を選挙管理委員会（明るい選挙推進委員）との協賛で開催
・子どもの権利に関するパネル展「まちれき×コドマチ条例（ルール）」を開催

○他市・市外団体からの自由民権運動に関しての講師依頼
・2022 年度：あきる野市公民館、福島県文化振興財団、多摩文化協会
・2023 年度：福島県石陽社顕彰会、青梅市明るい選挙推進協議会、多摩文化協会
・2024 年度：かわさき市民アカデミー、多摩文化協会
・2025 年度：神奈川県立歴史博物館、くにたち郷土文化館

今後の予定・課題

【今後の予定】
・小説で取り上げられた民権家石阪昌孝の長女美那を中心とした企画展及び企画展に関連した講演会等の開催
・厚木出身の民権家天野政立の政論草稿集を市民協働で翻刻・刊行
・明るい選挙推進協議会の研修への講師派遣
・男女平等フェスティバルでの出張講座

【課題】
・刊行を終了した紙媒体での紀要『自由民権』に代わる研究成果の発信方法について、より多くの方に届くような方法を検討する必要がある。

＜町田市域の歴史を継承する＞

答申概要

・展示や学習会、刊行物や多様な学習コンテンツをとおして町田市域の歴史を伝えることで、市民の郷土への愛着や誇りを深めることが大切。
・歴史分野を取り扱う組織の垣根を超えて、考古資料、歴史資料、さらには博物館から移管される民俗資料をあわせ、一体的な活用ができるよう連携していく必要がある。

あり方見直し方針

【めざす姿２】町田市域の歴史を継承する
市民の財産である市域の歴史を扱う施設としての責任を全うすることで、市民の誰もが知る施設になる。

・市域の郷土資料館であることを認知し、親しみを持ってもらうため、自由民権資料館に愛称をつける。
・考古・歴史・民俗資料の一体的な活用の一環として、歴史と自然が融合した環境が残る自由民権資料館周辺地域等の魅力を向上するため、「フィールドミュージアム」の形成をめざす。
・歴史的価値のある史料の散逸を防ぐため、市民への呼びかけや、史料整理の促進を図るための手法を検討し、強化する。
・時間や場所を選ばず気軽に歴史に触れることができるような町田デジタルミュージアム・ホームページ・Twitter・動画配信をとおして積極的に情報発信をする。
・市域の歴史研究の進展・蓄積を図るため収蔵史料のデジタル化、研究成果の情報発信をするとともに「町田市史」の検証を行い「新町田市史」の編さんに向けた準備を進める。

現在の状況

○町田の歴史を紹介する施設として親しみをもってもらうため、自由民権資料館の愛称を募集し、来館者による投票を行った結果、２０２３年１１月に「まちれき」に決定した。ホームページや、企画展等のチラシで使用し、周知している。

○常設展「町田の歴史－時代でたどる人びとのくらし－」を２０２３年２月にオープンし、地域の考古・歴史・民俗資料を一体的に活用するとともに、町田市域の歴史を時代に沿って紹介している。

○インターネットを通じて町田の歴史をいつでもどこでも学ぶことができる「町田デジタルミュージアム」を２０２２年４月に公開するとともに、講演会の講演録や企画展のガイドブックなどをデジタル化し公開した。また、ホームページやSNS、動画による積極的な情報発信を行っている。

○歴史的価値のある史料の散逸を防ぐため、ホームページ、SNS、教育広報誌、講座参加者へのチラシ配布などを通じて、自由民権資料館で古文書などの保存方法について相談を承っていることを案内している。また、町田市の歴史を知る上で重要と思われる資料を所蔵している方に対して、企画展開催のお知らせを送付し、資料借用の際に状況確認を行うなど、関係を継続している。

○将来的に市史編さんに着手することとなった場合に欠かせないと考えられる歴史資料を重要史料と位置づけ、２０２２年度から学芸員資格を有する会計年度任用職員を１名増員し、優先的にその整理を進めている。２０２４年度末の整理率は、重要史料群全体の６２.５％となった。

今後の予定・課題

【今後の予定】
・町田デジタルミュージアムの公開内容の更新
・魅力ある歴史資源に関する情報の定期的な更新
・重要史料群の整理

【課題】
・町田デジタルミュージアムの利用状況を検証し、より幅広い世代に利用していただけるよう更新内容を検討する必要がある。
・「フィールドミュージアム」の形成につながるよう、周辺地域との連携を強化する必要がある。
・市史編さんに着手することとなった場合に欠かせない重要史料の整理を着実に進める必要がある。

＜歴史をとおして人や学びを循環させる＞

答申概要

・市民の歴史学習の拠点として、住んでいる地域や年齢、国籍にかかわらず、一人ひとりが自分に合ったかたちで歴史を理解し、楽しく学べるような環境を今後整理していく必要がある。
・また、多様な切り口で題材を提供できる強みを活かし、歴史をとして地域で活動する人や関係団体、生涯学習施設をつなぐ役割を担っていく必要がある。

あり方見直し方針

【めざす姿３】歴史の学びを通して人と地域をつなぐ
多様な担い手と協働し、歴史を学ぶ楽しさ・面白さを伝え、学びのコミュニティを創る。

・多様な「知りたい」「学びたい」「調べたい」「考えたい」に応えるため、従来の講座に加えワークショップも視野に入れた講座の内容や開催方法を見直し、より多くの方が受講できるような体制を構築する。
・自由民権資料館で学んだ市民が、その知識や経験を地域で活かし、歴史の学びの輪を広げ、恒常的に継承されるような仕組みの構築を検討する。
・「子どもにも分かる」を意識し、「自由」「平等」「人権」の大切さや、地域の歴史について学んでもらうための教材を作成、発信する。作成にあたっては、小・中学校との連携を強化し、授業での活用可能なものとなるようにする。

現在の状況

○講座の内容や開催方法を見直し、２０２３年度から「歴史の学びが楽しくなる」ことを目的に市域の歴史資料を活用した「まちだ歴史講座」として、地域に特化した講義やフィールドワーク、企画展関連講演会、小中学生を対象としたワークショップなどに再編した。自由民権資料館だけではなく、各市民センターなどを会場にした講座、関連史跡などをめぐるフィールドワークなど、幅広いテーマで開催し、新たな参加者の獲得につながっている。２０２３年度１１回３７４人、２０２４年度１３回２６７人。

○町田の歴史を研究する大学関連団体等との協働による歴史資料の調査・研究、歴史愛好家グループの学習・研究活動の支援をおこなうとともに、成果物の発行を随時おこない、地域の歴史の学びの継承につながっている。

○主に小・中学校を対象とした出張歴史授業のプログラムを作成し学校にＰＲをおこなった。多くの学校から依頼を受け、子どもたちが町田の歴史に触れる機会を創出した。２０２２年度２２回８１９人、２０２３年度３１回１２２９人、２０２４年度４８回1，２７３人。

○地域の歴史について学んでもらうための教材として、町田デジタルミュージアムの開設、小中学校の授業でも活用できる動画、企画展にあわせた子ども向けガイドブック等を作成した。各校の地域を意識した授業が求められるため、出張歴史授業の機会を利用し、先生や児童・生徒の意見・反応を参考に、各校・各地域にあわせた出張歴史授業用の教材を作成している。

今後の予定・課題

【今後の予定】
・町田の歴史や自由民権運動を知り考える機会を提供するため、今後も、多様な講座やアウトリーチ事業を展開する。
・出張歴史授業の更なる周知

【課題】
・市域の歴史資源を活用するため、地域で活動する関係団体や講座の受講生同士がコミュニケーションをとりあえる仕組み（場づくり）をつくることが求められている。

（2）管理運営体制の見直しについて

答申概要

・自由民権資料館の業務全般の根幹である歴史史料の収集・整理・保管業務は、高度な専門性はもとより、地域住民との関係性を維持し続ける必要がある。
・学芸員の継続性が不可欠であることから、直営による運営が望ましい。
・広報業務などの一部の業務については、委託することによってより良い成果が生み出される可能性がある。

あり方見直し方針

・組織体制の見直しと民間活力の一部導入
・史料の収集・整理・保管に関する基準の作成
・新たな財源の検討
・新たな成果指標の設定

現在の状況

① 組織体制の見直しと民間活力の一部導入

２０２２年４月に、課内の組織改正を行い、係制を廃止した。これにより、考古・民俗・歴史資料の一体的な活用を進め、常設展である「町田の歴史」展の開設を実現した。分野を超えた協力により、町田の歴史全体を紹介する出張歴史授業も開催している。ま

た、新たに受付業務に従事する会計年度任用職員を置き、専門職が専門性を発揮できるように体制を強化した。
　直営でおこなっていた広報業務であるチラシやポスター作成、展示ガイドブックの作成などは、専門事業者に委託することにした。デジタルミュージアムの紹介動画を専門事業者に委託し、YouTube や町田駅前の大型ビジョンなどで放映することで、町田の歴史の周知につなげた。内容が充実し、好評を得ている。

② 史料の収集・整理・保管に関する基準の作成
　２０２２年３月に「町田市の歴史資料の収集・保存管理・活用に関する方針」を定め、この方針に基づき資料の収集をおこなっている。

③ 新たな財源の検討
　２０２３年３月発行の紀要『自由民権』への広告掲載をおこない、歳入につながった。

④ 新たな成果指標の設定
　自由民権資料館への来館者に加えて、「まちだの歴史講座」、小中学校での「出張歴史授業」、イベントやアウトリーチ事業などの参加者を含めた人数を指標として効果検証をおこなっている。
　「まちだの歴史講座」では、定型的なアンケートを作成し、参加者の満足度などが把握できるようにしている。
「町田市教育プラン 24－28」における重点事業に、重要資料群の整理率を定め、着実に整理を進めている。

今後の予定・課題

【今後の予定】
・歴史資料の収集・整理・保管業務を継続する。
・「新町田市史」編さんに不可欠な重要史料群の整理を着実に進める。
・協力団体とおこなっている史料整理、翻刻作業などを継続する。
【課題】
・学校の統廃合に伴う史料の整理・受入業務への対応と保管場所の確保、自由民権資料館だけではなく、関連施設も含めた管理運営体制の検討が必要である。
・紀要『自由民権』の休刊に伴い、新たな財源確保策の検討が必要である。

＜出張歴史授業の様子（養蚕）＞